

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

ウイングフィールド

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://wing-f.main.jp/>

ウイングフィールド提携公演 第11回むりやり堺筋線演劇祭参加

初劇

「アンソロジー ～三つの短編と鶏と卵～」

出演／遊気舎

～パンの巻 (三つの短編)～

作・演出／久保田浩

『嵐の前のしずけさを』

『いるはずの彼』

『海のみえる電車』

～玉子の巻 (オムニバス長編)～

作／長尾ジョージ 演出／久保田浩

『鶏と卵のジレンマ』

■=パンの巻 ○=玉子の巻

- 7/3(水) 7:00 ■
4(木) 7:00 ○
5(金) 3:00 ○
7:00 ■
6(土) 12:00 ■
4:00 ○
7(日) 12:00 ○
4:00 ■

料金／前売3,000円 当日3,500円
パン・玉子通し券5,500円
学生2,000円(要学生証)
※全自由席(整理番号付き)
<http://yukisyu.holy.jp/>

2019 HPF (大阪高校演劇祭)

主催／HPF実行委員会 大阪府高等学校演劇連盟

共催／(財)一心寺文化事業団

一心寺シアター倶楽、浄土宗應典院本堂と3会場にて開催

ウイングフィールド開催期間 7月20日(土)～7月30日(火)

カンパ券 中・高生500円 一般1,000円

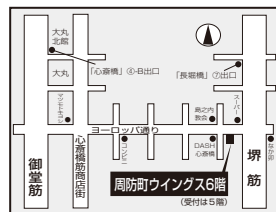
ウイングフィールドの初代プロデューサーであった故・中島陸郎氏が亡くなって20年になりました(1999年6月14日没)。遺されたたくさんの言葉の中からほんの少しだけお届けします。

【感無量寿経】その七

中島 陸郎

たしか十代に私は演劇学者であり劇作家でもあった青江舜二郎という人の『しなやかなるたからもの』と題する著作を読んだことがある。手許から失せて久しいので記憶は断片に過ぎないが、著者は公教育に演劇をと主張されていたようだし、根拠として、人間の人間たる感受性のしなやかさを養い保つ手段として、その身体性の重要性を挙げておられたのではなかったか。細部は思い出しようがないとしても、その言説の多くに深く共感したことだけはいまに鮮やかだ。

身体性といっても難しいことではないと思う。単なる肉塊の生物から人間へと発達する過程をふり返ると誰にもやすく理解できるはずだ。羊水に浮く誕生以前のことはさておき、辿りつける記憶以降の全過程は他者(この場合は人間だけでなく小動物から自然現象、そしてモノまでを含んでの…)との関係で進化は果たされてきた。身辺に這う虫に対する発見、驚愕、防衛…。鬼ごっこ、鬼の相手を見えなかった時の心もとなさ、逆転して襲う孤立感…。路地を吹き抜ける風の皮膚の感触と秘そやかな企みへの後めたさ、恐れ…。覚束なくともナイフを操って割るエンピツに対する共生と達成感…。身体感覚と感情の個人史のページを操ればきりがないこれら他者との関係は「しなやかなる」感性に錘りを付けるだけでなく〈知〉の獲得を重ねるにつれて思考の自発性をも発芽させる。私の独断ながら「たからもの」と続けて付された所以であろう。



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

すおうまち
周防町ウイングス

*
今年も、多大の犠牲の結果、沖縄が戦場ではなくなった六月がすぐにやってくる。そうして五十二年目の八月もだ。

過日、ナチスに関する長大のドキュメンタリーを続けて見る機会を掴んだが、ヒトラーのあの独特の拳手と獅子吼にうっとりし狂熱と共に理性を捨てた群れはかのヨーロッパの国民だけではなかった。忘れてしまえるほど遠い昔の出来事ではなく、人間として判断力の備わったと見なされる年頃の日本人まるごと、吾人の親父や祖父たちが上御一人からご近所から与えられる判断に己れの思考を止めてしまったことの結末として“第二次世界大戦”という愚作を自演し他へ暴虐をもたらしたという事実。

コトは過去の悲劇に止どまらず、いま私たちが生きて行く上で否応なく死命を制せられている政治・経済の有様にも同根の現象を見ることは簡単だ。全くの一例に過ぎないが、最近のわが国の金融制度改革議論の中から露呈してくるものは、官僚の事なかれ主義だけでなく、何が有能でその地位に昇りつめたかは知らねど、判断停止した民間銀行トップ共の無策ぶりで、知りつつもそれを許しても来た無責任な環境・気分はにわか失語症と合併して既に全領域に蔓延していると言える。類例のない四季に育まれ、ムラというくびきの中で押し込められた精神風土の特性を弁明に使うことが今更できようか。過去=歴史に向き合う時の政治家(的)言辞の破廉恥さは変わらず、耳を塞ぎたくなる。先ずもって事実と執着せずかばいあう精神はその名に値いしない。特性とやらを遠因とする大災厄は避け難いだろう。「原爆を造ったのは狂気ではなく理性だった」という寺山修司さんの遺した言葉がまたしても重く響く。

(ウイングホットプレス1997年5月号より抜粋。)